

学長奨励賞への推薦状

駒澤大学経済学部
教授 小林正人

標記の賞に、新井優和君（経済学部経済学科4年、EX3247）を推薦する。

新井君は、小学生からボランティア活動を続けていた。駒澤大学に入ったあとは大学のボランティアサークルとのつながりから、「世田谷ボランティアセンター」と関わることとなった。その中で、大学生チーム「せたがや学生ボランティアセンター」の発足に参加した。2014年4月以降は、世田谷区の大学に通う大学生を中心に月2回のミーティングをしながら、大学生同士の繋がりを作っていた。

その中で、ボランティア活動について多くの学生に知ってもらいたい、もっと多くの学生にボランティア活動に参加してほしいという思いから、世田谷区の学生ボランティアの学生交流会の企画や運営に力を尽くすようになった。交流会は、産業能率大学（2014年6月）、昭和女子大学（2014年10月）、東京都立大学（2015年1月）の三つの大学で開かれ¹、参加者数は最大で50名だった²。

その後も月2回のミーティングを継続して行なった（2015年8月まで）。

また、世田谷ボランティアセンターの活動の一環として、「第3回全国学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会」（2015年3月）にブース参加した。そのつながりにより、同集会の主催団体からの公募に応募し、第4回集会の「学生委員会委員」（全25人）を委嘱され³、準備のための運営委員会に出席した（5回）。

第4回全国学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会（2016年3月4日～6日、会場は国立オリンピック記念青少年総合センター、後援：文部科学省）は、全国の学生ボランティアのいっそうの発展のため、様々なプログラムを通じてお互いに学びあう場である。その中で新井君は、「ボランティアコーディネーション」をテーマとする第8分科会のコーディネーターを担当した⁴。ボランティアコーディネーションとは、ボランティア活動で様々な力が発揮されるように調整する活動である。そのテーマについて、事例報告、グループワーク、ケーススタディを通して学生同士で学びあう分科会を企画し運営した。参加者は70人にも上った⁵。集会全体も、全参加者が600人を超え、大盛況の内に終了した。

現在は、第5回全国集会（2017年3月3日～5日）の学生委員会委員も委嘱され⁶、第6分科会の企画⁷や、全体の広報、全体のプログラムサポートなどを行っており、全国集会の成功のために、力を尽くしている。

以上

¹ 資料1：世田谷ボランティアネットワークの雑誌『セボネ』No.132（2015年4月号）に、新井君の活動が実名で紹介されている。

² 資料2－写真1：せたがや学生ボランティアセンターによる学生交流会（最後列の右に新井君）

³ 資料3：（独）国立青少年教育振興機構理事長 田中壮一郎からの学生委員会委員委嘱状。

⁴ 資料4：第4回全国学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会のプログラム。第8分科会のコーディネーターの一人に新井君の氏名がある。

⁵ 資料2－写真2：第4回全国学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会の第8分科会の参加者（前から2列目の左に新井君）

⁶ 資料5：（独）国立青少年教育振興機構理事長 田中壮一郎からの学生委員会委員委嘱状。

⁷ 資料6：第5回全国学生ボランティアと支援者が集う全国研究交流集会のプログラム。第6分科会のコーディネーターの一人に新井君の氏名がある。